



国中だより

一中ホームページ：国立市立国立第一中学校へアクセス

国立第一中学校
学校だより
令和2年 9月号
9月10日（木）発行



自分の命は自分で守る！

校長 山上 真哉

朝、いつものように学校へ到着すると職員玄関に花が生けてあります。2年1組のIKさんが生けてくれているのですが、昨年校長室に生け花の件で相談に来てくれ、是非学校に作品を展示し、先生方や来校者そして生徒の皆さんが少しでも作品を見ることで優しい気持ちになってもらえれば・・・との想いを伝えてくれました・・・そしてコロナ禍でしばらくの間展示されなかった作品が先日再開され、職員玄関には元気なヒマワリを中心とした本当に気持ちが明るくなるような作品が展示されていました・・・いつもありがとう！

さて、先日今年度初めての避難訓練を行いました。密を避けるために、各学年がそれぞれに実施し指示をしっかりと聞いて必死に避難する生徒たちを確認して安心しました。本校では3年前から小学校で使用していた防災頭巾をそのまま継続して使用することにし、やっと定着してきました。初めは、中学生になって頭巾をかぶることを拒んでいた生徒が多く、指導が大変でしたが、「自分の命は自分で守る！」ことを先生方がしっかり生徒に言い聞かせながら指導を継続させたことが実り、今ではほぼ全員が頭巾をかぶっての避難ができるようになりました。

私は教員生活の2校目で三宅島に赴任しました。三宅島は活火山の島で、約20年に1度のサイクルで噴火を繰り返しています。最近では1983年と2000年に噴火が起こり、今でも有毒なガスが噴出しているのです。

私のクラスは男子6人、女子6人で12人のクラスでした。島の生徒は素直な子が多く、特に他の地域から来た私に対しては興味を示してくれました。生徒たちと過ごす毎日が楽しくて、あっという間に月日が過ぎて行きました・・・

そんなある日、三宅島に来て初めての避難訓練が行われました。校内にサイレンが鳴り、そのサイレンに反応した生徒たちは私の指示よりも先に、素早く自分のヘルメットをかぶり、

二人組になって身を低くして頭をかばいながら誰一人として声を発することもなく、実に素早く決められた中庭に避難したのです・・・私はただ生徒の後ろを必死についていくことしかできませんでした。3学年で50人足らずの小さな学校でしたが、全員が必死になって避難する姿に圧倒され鳥肌が立ちました。

島の訓練は噴火を想定した訓練が多く、都内では考えられない状況を想定して実施します。そして、何より驚いたことは当時の生徒全員が1983年の噴火を実際に経験していたのです。その当時のことを生徒たちは常に思い出しながら、身を守るために本気になって訓練を行っていたのです。噴火で一番恐ろしいことは飛び散る火山弾（溶岩が噴出し空中で固まったもの）が無数に空から降ってくるのだそうで、特に頭を守りながら身を低くして避難することを体が覚えていて、その行動を見てこれが本当の訓練なのだ・・・私の教員人生で本当にいい経験を島の生徒たちから学びました。

先日台風10号が九州を中心に大きな被害をもたらしました。私たちは今、地球温暖化に伴い台風の巨大化や、近い将来必ず起こるといわれている巨大地震に備えた、しっかりとした準備が必要です。経験が人を本気にさせる・・・三宅島で学んだことを私はしっかりと継承しながら、学校経営の中で教員や生徒への意識づけを行い、いざというときに備えた準備をしっかりと行っていきたいと思います。

2学期は順調に始まり、毎日生徒たちは元気に学校生活を送っています。そして、新型コロナウイルスが依然として猛威を振るう中、私たち教職員は気を緩めることなく、毎日しっかりとコロナ対策を実践していきながら、生徒が安心して生活できる楽しいと実感できる学校をつくっていきます。



pixta.jp - 20694505